

## 「地域課題の教材化にチャレンジする！」

### はじめに

現在、チャレンジしているのが、「地域の課題」を教材化することである。4年生社会科「わたしたちの住んでいる県」の単元で「加太の鯛を取り巻く実社会の問題解決」に挑む場面の授業を紹介したい。

4年 A組 担任  
中山 和幸  
社会科



### 第8・9時 釣り観光客が鯛をたくさんとり過ぎる問題を解決しよう。4Aめでたいプラン

「持続可能を続けるために観光客が鯛をとり過ぎる問題を解決しよう」という学習問題について、考えた結果、子どもたちからは以下のような考えが出てきた。

- ① 釣り客に対して「きつすぎず、ゆるすぎないルール」をつくること。
- ② 「ルール」や「漁師さんの取り組み」を釣り客に伝えていくこと。
- ③ みんなが「加太の鯛」を守るために協力すること。

そして、この3つを合わせて「加太の鯛がずっと特産物であり続ける、そのような意味でめでたい計画」ということで「4Aめでたいプラン」と名付けた。

漁師の立場から考えると、問題に思えた「観光客の釣り過ぎ（乱獲）」が立場を変えると、乱獲ではなく、違って見えてくる。漁師の立場から考えるとマイナス面ばかりが見えた観光客が、加太の飲食店、遊漁船業者、ホテルや旅館などと立場を変えるとプラスの面が見えてくる。このように立場を変えると、観光客がもたらす「よい面」と「悪い面」の両方が見えてきて、判断が難しくなる。難しい問題だが、子どもたちは自分や他者が納得できる「納得解」を粘り強く探し続けることができた。

第10・11・12・13時 ポスターにまとめよう。第10～13時は、これまでの学習を模造紙大の大きさのポスターにまとめる活動をした。

「加太の鯛はなぜ、特産物か」、「加太の鯛を取り巻く問題」、「問題の解決方法」など、これまでの学習で子どもたちが学んだことを余すことなくつめこんだポスターができあがった。

### おわりに

地域の教材は、子どもたちにとって身近で有り、それ故に、学習に対する意欲の高まりが期待できる。また、地域の大人の生き方から多くを学ぶこともでき、キャリア教育の視点から考えても地域教材を扱った学習の意義は大きい。また、地域に対する愛着や地域の一員としての自覚を高めるためには、地域教材で学習をすすめることが重要である。地域教材のよさを生かし、子どもたちが地域の「ひと・もの・こと」に対する愛情や地域社会の一員としての自覚を育んでいけるような授業づくりを目指していきたい。

